

地域公共交通計画推進分科会の実施について（報告）

令和4年12月16日に、坂出市地域公共交通計画推進分科会を実施し、令和4年度実績に対する事業評価に向けた検討を行った。

分科会概要については、下記のとおり。

○利用実態、事業評価について

- ・実績値について、絶対的評価基準はあるか？（どの水準以上であれば優良な事業といえるか）
↓
 - ◆ 1つの基準として生活交通確保維持改善計画に掲げる目標値が考えられる。
 - ◆ 目標を達成しているかだけでなく、2021年現状値に対してどういった変化があったか、またその変化の原因は何か、といった観点が大切である。
 - ◆ 単に収支率の低い赤字路線と考えるのではなく、移動の目的地となる事業など関連する事業における収益・効果も加味して考える必要がある。一方で、行政による赤字補助は無制限に拡大できるものではないので、収支率を向上させるための検討も必要。
 - ◆ 王越ささえ♥隊の取組のような地域の取組や、その取組に対する変化の様子も大切である。

（鉄道利用について）

- ・鉄道利用について、国の旅行支援もあり回復傾向にあるが、テレワークやリモート会議の普及により、感染症拡大前までの回復は難しいことが想定される。

（バス利用について）

- ・バス利用者について、感染症拡大前と比較して9割程度まで回復しているが、あと1割の回復が厳しい状況。
- ・費用面では燃料費高騰の影響もあり、収支率改善はさらに厳しい状況。
- ・GTFSデータの整備や、車両の安全装置の設置など利便性・安全性の向上に取り組んでいる。

（デマンドタクシーについて）

- ・デマンドタクシーについて、土日や年末年始、遅い時間の運行の要望がある。

○課題について

- ・感染症対策のための行動規制等が緩和される中で、こういった戦略で利用促進に取り組んでいくか検討が必要である。
- ・高齢社会において、自由に自動車を利用できる層（できない層）を分析して、なぜ公共交通を利用しているか（利用していないか）という分析が必要である。
- ・リモート会議が普及した一方で、リモート対応が適さないものも明らかになってきており、対面需要に対応できる体制整備(空港や駅までの2次交通の確保維持)が必要である。
- ・循環バス中ルートについて、想定と比べて利用が少ないようなので、坂出駅中心のまちづくりを考える中で見直しが必要である。
- ・デマンドタクシーについて、ニーズに対応する新しい制度設計や、A I デマンドへの対応可能性等、詳細な検討を進める必要がある。

○今後の取組に向けた提案について

- ・自動車社会の中でも、自動車で外出できる元気な時から、10回外出する中で1回は公共交通を使って外出するといった習慣づけができれば良い。
- ・中小企業振興計画に関する会議において「ヘルスケア産業」がキーワードとなっている。ヘルスケア推進と絡めて「ウォーキング&バスライド」のような取組はどうか。
- ・中心部までは自家用車で行き、中心部では循環バス移動ということができれば、まちの活性化にもつながる。
- ・分科会、協議会で上手く役割分担し、それぞれ充実した議論ができれば良い。
- ・分科会においては、交通事業者から現場の肌感覚や利用状況の変化等を発表いただき、それを住民目線や商工会議所目線で意見交換ができれば、利用促進へのアプローチの仕方が広がる。